# 新年のごあいさつ

大磯町長
中﨑　久雄

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆さんにおかれましては、新しい生活様式の下、これまでとは違った新年であるとは思いますが、それぞれの希望と決意を胸にお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行し、日本においても首都圏を中心に全国的に感染が広がりを見せました。一時期は緊急事態宣言が発令され日本の経済活動は大きく停滞しました。そのような中、感染症拡大防止の観点から外出自粛などが要請され、収入の減少などにより生活に窮した方も少なくはなかったことでしょう。町としましては、町民の皆さんの不安を取り除くべく、まずは皆さんの安全・安心を最優先に考え、感染症拡大防止に努めてまいりました。そして、この感染症の影響により支援を必要としている方々に対しまして、医療機関や福祉サービス事業者等への衛生物品の提供、PCR検査体制の整備や小規模事業者への給付金制度の創設など、「感染症の拡大防止と町民の健康維持」、「町民の安定的な生活の確保」、「町内事業者の経済活動の維持」を柱とする緊急対策を3次にわたり実施してまいりました。

新型コロナウイルス感染症は、未だ収束の兆しが見えない状況にあります。町としましても引き続き感染症拡大防止に向けて全力を投じていく所存です。そして、町の全ての事業において「ウィズコロナ」という意識を持って引き続き臨んでまいります。町民の皆さんにおかれましても、新しい生活様式の下、感染症予防対策を十分に施したうえで日々の生活を送っていただくようお願いいたします。

さて、昨年を思い返しますと、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、多くの事業を見送らざるを得ませんでした。そのような中でも、誰もが安全で安心に生き生きと暮らせる町をめざし、町政運営に取り組んでまいりました。

大磯港に整備を進めてまいりました「大磯港賑わい交流施設」が完成し、今年の3月にはグランドオープンを予定しています。また、国・県と進めている「明治記念大磯邸園」においては、第一期開園として庭園の一部を常時公開いたしました。太平洋岸自転車道が延伸されたことも追い風として、これらの施設は町の観光と産業の活性化や、賑わいを生み出す新たな拠点として、さらなる交流人口の増加につなげてまいります。

そして、子育てや教育分野においても、小児医療費助成制度の拡充や待機児童対策、また、子育て世代の様々なニーズに合わせた切れ目ない子育て支援施策を展開するとともに、国のGIGAスクール構想によるデジタル教育の推進などの充実も図ってまいりました。

この他にも、フレイル（虚弱）予防への取組みや、地域とのつながりを回復させる取組みの検討など、町全体の健康と福祉の向上にも努めてまいりました。

これらの取組みをさらに深化させ推進することで、定住人口の安定化へとつなげていきたいと考えています。

今年は、将来の町の指針となる第五次総合計画がスタートする年となります。多くの皆さんから様々なご意見をいただきながら進めてまいりました策定作業も、最終段階に差し掛かっています。ここ数年、町を取り巻く社会経済情勢は大きく急速に変化しており、町の最大の課題である人口減少と少子高齢化の速度も増しています。

新たな総合計画においては、これらの課題に適応できる町を創り上げ定住人口の安定化をめざし、人口減少を抑制することを目標に掲げています。これまで第四次総合計画の最終目標である「交流人口の増加と定住人口の安定化」に向けて進めてまいりました様々な取組みとその成果を継承しながら、これからの人口減少・少子・超高齢社会を見据えた中で、SDGs（持続可能な開発目標）といった新たな視点も加えながら、町民の皆さん一人ひとりが「あなただけの大磯らしいライフスタイル」、つまりこの大磯町を舞台として自分に合った快適な生活を実現してもらえるよう、町民の皆さんの協力もいただきながら、これまで築き上げてきた「信頼とつながり」をより強固なものとし、町の発展に向け持続可能な行政運営に力を注いでまいります。

結びに、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない状況ではありますが、今年一年が皆さんにとりまして、健康で幸多き飛躍の年となりますよう心からお祈り申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

大磯町議会議長
髙橋　英俊

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆さんには日頃より、大磯町議会への深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は台風の日本上陸はなかったものの、7月には過去最長29日間続いた豪雨や、各地で震度4、5クラスの地震が多発しました。また海外では、オーストラリアやアメリカ西海岸で大規模な森林火災が発生し、甚大な被害を受けた年でした。

さらに、新型コロナウイルスという未知の感染症によって、世界中でパンデミックが発生し、日本だけでなく世界の日常が一変してしまう重大な事態が生じました。第3波の襲来で感染者は増え続け、依然として世界経済への影響は深刻で、一刻も速やかな収束が望まれます。

さて、昨年の議会活動を振り返りますと、4月7日、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発令され、その対策の影響で一時的に議員活動、議会運営を制限せざるを得ない状況になりました。

4月16日に、「大磯町議会・新型コロナウイルス感染症対策行動指針」を策定し、感染拡大の抑止だけでなく、議会運営の停滞を防止し、住民サービスの向上を継続していくためには、「大磯町議会から感染者を出さないこと」、「感染させないこと」が最大の対策であることから、議員としての行動指針を定めました。

「コロナだから一切の議会活動を停止すべき」という声もなかったわけではありません。実際に会期の短縮や一般質問を取りやめた議会もあったようです。

しかし、私たちは、毎年5月と11月に行っていた議会報告会は、町民の皆さんを招いての会議であり、三密の回避が困難と判断し、やむを得ず中止としましたが、議会定例会の一般質問ほか、各常任委員会なども感染症対策を十分にしたうえで今まで通り実施し、町民生活に直結する施策が停滞することのないよう、積極的に協議・審議しました。

さらにこの機をとらえ、議会のICT化、リモート会議など、新たな試みを検討し、議員同士の情報共有を図るためのランチミーティング、勉強会などを積極的に行いました。

また9月には、新庁舎建設等特別委員会を設置しました。新庁舎建設はこれから町が取り組む大きな事業となります。町民の皆さんの多くの声を聴きながら調査・検討し、よりよい新庁舎となるよう町に提言を行ってまいります。

歴史をひもとくと、重大な危機に直面した時こそ、新たな世界への扉が開かれるチャンスとも言われています。

諸外国と比べれば、日本の感染者数は各段低いレベルです。新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束のために、検査体制を充実させ、万全な感染症対策を実施し、全町民が、全国民が結束して新たな時代に順応していかなければならないと考えます。

私たち議会は、町民の皆さんに議会でどのような議論がなされているか、町の提案に対して、町民の代表である議会がどう判断しているのかを知っていただくことは、大変重要なことと考えます。昨年は議会報告会などを通して直接、町民の皆さんと意見交換をすることはできませんでしたが、議会定例会ごとに発行している「議会だより」はもちろんのこと、ぜひ本会議や各常任委員会の傍聴や本会議テレビ中継で、私たちの生の議論をお聞きいただき、ご意見・ご要望をお届けください。しっかりと受け止めて、政策提言につなげていきたいと考えています。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響によって、町税収入の減少などが見込まれ、財政も極めて厳しい状況に置かれることと推察しています。皆さんの生活に支障が出ないよう町の動向を注視し、議会の務めを果たす所存です。

結びに、新たな年を迎え、町民の皆さんのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。